

ひろしま自然保育認証制度活動報告書

2018.3.6

かやのみ幼稚園

活動内容「水晶山へ水晶をとりにいく」

① 経緯

水晶山は幼稚園の敷地内ではあるが、山道を 200 メートル程歩くため片道 15 分程の時間がかかる場所にある。50 年以上前から水晶が出ていたため、近隣の住人には昔から遊びの一環として親しまれた場所であったが、15 年前までは木々に覆われ、近づく者もなく忘れられた山であった。15 年前、山道をかき分けて園長と当時の預り保育年長児 10 名程が、水晶山へ行くルートを整備し、数十年ぶりに水晶山を発見、掘ってみると何個かの天然水晶を採取できた。この経験から、園児が水晶山へ行くのが遊びの一環となり、とても人気となった。

しかし、道中は斜面や草の生い茂る場所もあり、また貴重な天然水晶の保護等から、年に数回程度しか行くことを許可していないため、水晶山へ行くこと自体が稀な経験であり、卒園するまでに 2 回程度しか経験できない貴重な授業の 1 つである。

② 水晶山へ行く

園児に水晶が何かというのを説明するのはとても難しい。透明な石、ガラスではない、六角形等の特徴はあるが、実際に採取して水晶がこういう特徴の物であるという知識を得る方が手っ取り早い。3 月 6 日、預り保育年長児 15 名と補佐教諭 2 名ともに水晶山へでかけた。手スコップを 1 個だけ持って行かせる。2~3 月頃が道中に草木が少なく毒蛇やハチ等の心配が少なく、また枝に葉が少なく見通しがきくこと等から、この時期に行くことが多い。一番遅い子どもの歩調にあわせて進んでいく。



③ 水晶山で水晶を採取する。

水晶山へ着くと、まず子どもたちの人数確認と健康を確認。周囲の安全を確認したら、水晶山の色々な場所を視覚で確認させる。キラリと光るものが天然水晶の可能性はある。ひとつずつ手に取り、汚れ等を落としたり拭いたりして確認していく。

表面になればスコップを使って少し掘ってみる。スコップを使う経験にもなる。



④ 水晶の確認

水晶は正式には石英という鉱物のひとつである。長い月日をかけてできる天然のガラスのようなものである。無色透明なものから、少し紫色の入った紫水晶や、黒水晶、黄水晶等、様々なタイプの水晶が取れる。どれが水晶なのか最初は理解できずに採取している子どもも、1人天然水晶を採取したら、それを見せてやると何が水晶なのかをすぐに理解できるようになる。中には普通の石や、白く濁った価値の低い水晶を見つける場合もあるが、だんだんと透き通る輝く水晶を見つけることができるようになると、とても楽しくなるのか、集中して探すようになる。しかし、資源保護の観点から30分程で終了させる。後日、年長児全員が参加して水晶山へ行き、水晶を採取しに行った。先発で採取した子どもたちが経験を語ったのと、伝統的に水晶山で水晶を採取してきた体験談を卒園生等が話をしていたことから、卒園までに一度は行くということになった。

